

第6回和牛甲子園【発表概要】

福島県立磐城農業高等学校

「いわきの畜産を盛り上げたい！」

この思いから令和元年より始まった私たちの和牛肥育への挑戦です。自分たちが肥育した牛の牛肉を地元スーパーマーケット「マルト」様の協力で販売ができ、これが先駆けとなって本校の食品流通科とマルト様で食品製造の商品開発が現在も続いております。

今回の出品牛は、安定した採食量摂取を目指し競い食いをさせるため、前回1頭飼いで実施した肥育計画を、2頭飼いとして飼料の嗜好性向上のため、いわき市内にある「山田屋醸造」様、二本松市にある「福島県醤油醸造協同組合」様の協力のもと「醤油かす」を飼料給与計画に入れました。

また、「JA北日本組合飼料株式会社」様のご協力を得て採血検査を行い、「福島県農業総合センター畜産研究所」様の協力を得てAI技術による肉質評価システムを実施。肉質の途中経過を知ることで管理の問題点を考え改善を図ってきました。これらの取り組みで得た管理方法や技術は、現在飼養する去勢牛2頭（17ヶ月齢）へ生かし技術の構築を今後も目指します。また、この去勢牛2頭は地元いわき市内で生産された肥育素牛を導入しており、地元で生産、地元で肥育、そして地元で消費することが地域畜産業の発展とブランドづくりに繋がると思います。

今回出品した「あさがお40号」は、本校で繁殖母牛として飼養管理している「ひでこ号」の孫にあたります。「ひでこ号」の娘牛「きくた80号」がJA和牛ファーム福島さくら様の牧場に購買され、そこで「あさがお40号」を出生し育てられ、磐城農業高校の肥育素牛として戻ってきました。それに「きくた80号」「あさがお40号」をJA和牛ファームで飼養管理していたのは本校を卒業しJA和牛ファームに就職した卒業生であり、牛が人の繋がりを作ってくれているのだと強く感じています。